

今さら聞けない AI(10) AI がロボットの頭脳に！

TV のニュースでもやっていましたが、4月19日、人間のランナーと人型ロボットと一緒に走る初のハーフマラソンが中国・北京で開催されました。人型ロボットについては、従来、米国のベンチャー企業(Tesla や Figure AI)が先頭を走り、日本でもホンダのアシモ等が対抗してきましたが、近年は、中国勢が急迫しているようです。

今回は 21 体のロボットが出場し、制限時間の4時間以内で完走したのは4体に留まりましたが、多種多彩なロボットが出場し、ロボット技術開発の活況ぶりを伺うことが出来ました。

ロボット走者で1番にゴールしたのは「天工ウルトラ」(身長約 178cm)で2時間 40 分で完走、人間の優勝者の記録(約1時間)には遠く及ばなかったのですが、走りっぷりにポテンシャルが感じられました。これは、視覚と連動するAIの搭載によって、ロボットが道の勾配や障害物、凸凹など環境に柔軟に対応する能力によるものと思われます。



また、驚いたのは、スタート直後に 転倒したり、バラバラになるロボットが登場するなどコミカルな場面が見られたことです。この自由闊達な trial and error の中にこそ、実用化に向けた確かな足取りが感じられました。

人型ロボットは、暮らしのあらゆる分野に広がると予想されています。医療や製造業、サービス業、交通、さらにはエンタメ業界にまで及ぶようで、ゴールドマン・サックスは 2035 年までに人型ロボットの市場規模が約6兆円に達すると予測していますが、さらに、もう1つの大きな需要は高齢者介護の現場とみられます。AI ロボットは、そもそも無機質だし、きめ細かい作業、人に対する安全性など実用ハードルが高いですが、対人関係のような遠慮が要らない分、意外と普及が速いかも知れません。

(竹の台 西元)